

佛立開導日扇聖人物語 第6回



200th Anniversary
佛立開導日扇聖人◎ご生誕200年度満

法華経本門の御題目のご信心者となった開導聖人は、ひたすら教えを学び御題目のご信心を深めていったんだ。そして、多くの人々に熱心に御題目をお勧めするお教化のご奉公に励まされるんだね。やがて僧侶になりたいとの夢が膨らんでいくんだけど、今回は出家得度（僧侶になること）と檀林（学校）入学のお話をするね。

出家得度

三十二歳 嘉永元年（一八四八）、この年は開導聖人のお母さんの七回忌に当たる年だったんだ。無事に二年忌をつとめられた開導聖人は、以前から考えていた出家得度の道をハッキリと決意されたんだ。

そこで、教化親（御題目のご信心を伝えてくれた人）である随宏院秀典・日雄師【佛立開導日扇聖人物語・第五回を参照】に相談し、兵庫県の淡路島にある隆泉寺というお寺に入寺することになったんだよ。

そして嘉永元年四月二十八日、お師匠さまを淡路島隆泉寺の住職・日耀師として、僧名を「無貪」と名付けられ「出家得度」されたんだ。ちなみに、この「四月二十八日」という日は、お祖師さま（日蓮聖人）が立教開宗（この世ではじめて御題目を



嘉永元年(1848)4月28日 お師匠を日耀師として僧名「無貪」と名付けられ出家得度された開導聖人

お唱えし、人々に御題目を弘めることを誓われた）の日なんだ。特にこの日を選んで、開導聖人は念願であった「僧侶の道」に進まれたんだよ。

本興寺檀林入りを拒否される

お師匠さまの日耀師は、大変厳しく開導聖人を指導されたんだ。本堂の縁側のふき掃除や水くみ、マキ集めなど。来る日も来る日も「御宝前とお師匠さまのお給仕」の修行だったんだ。でも開導聖人は決して弱音を吐くことなく頑張られたんだね。

一通りの修行が済むと開導聖人は、兵庫県尼崎にある本興寺檀林（学校）に入学して、さらに深く勉強されることになったん

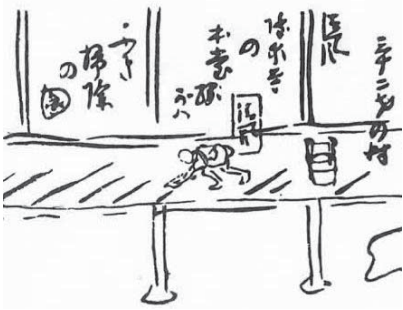
だよ。お師匠さまに付き添われて本興寺檀林にやって来た開導聖人は、他の新しく僧侶になった人たちと一緒に入寺式（入学式）に出られたんだ。

しかし、開導聖人が檀林（学校）で学ぼうとされると、檀林で学ぶ生徒たちの間で「一緒に勉強出来ない」「入学反対」と開導聖人の檀林入学をとんでも嫌がったんだ。これは僧侶になる前から大変に有名な学者であった開導聖人に対して、多くの生徒が「勉強しても負けてしまう」と思ったことから「入学反対」となったようなんだ。

（四面の「新佛立入門」等、諸説があります。）
そんな間違った言い分をあつさり認めてしまおう檀林や宗門に、開導聖人はスツカリあきれてしまい、お師匠さまと共に淡路島に戻られたんだ。そして、お師匠さまは優秀なお弟子の才能を何とか伸ばそうと、千葉県の細草檀林への入学の準備を進められたんだ。開導聖人はお師匠さまの心遣いに感謝し、しばらくお師匠さまのもとでお仕えされ、細草檀林行きの準備のため京都の生家に帰られることになったんだ。



開導聖人が出家得度された隆泉寺（法華宗本門流）の外観



隆泉寺本堂の縁側をふき掃除される開導聖人「清風一代記略図」・御自画伝・扇全5巻189頁



お師匠さまに付き添われて尼崎の本興寺檀林に向かうところ「清風一代記略図」・御自画伝・扇全5巻191頁